

第38回学校評議員会 会議録

平成29年7月18日（火） 14:00～15:45

弘前高校応接室

出席者 学校評議員 3名

学校側 校長、教頭（司会）、事務長、教務主任
進路指導主任、生徒指導主任、教務部員（記録）

1 校長挨拶

校長 : 学校評議員会は平成13年頃から実施している。以前は年3回の実施であったが、現在は年2回の実施である。評議員には、学界から中根さん、地域を代表して木村さん、同窓会関係では赤石さん、川村さんにそしてPTAを代表して敦賀さんに委嘱をしている。本校では、1回目の評議員会を例年、ねふた運行の前日に開催し、ねふた制作の様子も見学いただいている。実際に生徒の様子を見学し、学校の状況を見ながら、学校経営方針などについて、忌憚のないご意見をいただきたい。

2 校内一巡

校内一巡（ねふた制作見学）

3 意見交換

校長 : ○学校経営方針について

- ・ 目指す人間像「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」と、教育目標の3点「（1）自学自習（2）規律ある自由（3）体力の増進」については昭和46年に当時の小田桐校長が示したものであり、長い間変わっていない。ただし、近頃の生徒は気力や心の面から崩れることが多く、（3）の体力の意味合いとして、それらも加えなければならなくなっている。
- ・ 重点目標は4つ上げている。「確かな学力の育成」「豊かな人間性と社会性の育成」「キャリア教育の推進」「重点校としての基盤整備」の4つである。これらは昨年度から変更はないものの、目指す人間像や教育目標を達成する上で、それ以前よりやっていることではある。
- ・ 確かな学力を育成に関しては、弘前高校は大学へ「入れる」ための指導ではなく、主体的に学び、自ら考える授業を展開していく。教育目標にもある自学自習も大切であるが、自学自習の姿勢を身につけさせるために学びへの姿勢や学習習慣を確立する授業を展開していく。また、「主体的・対話的で深い学び」を授業で行えるように工夫をしていく。

- ・豊かな人間性と社会性の育成に関しては、本校卒業生は各界でリーダーとして活躍しているように、生徒達も卒業後リーダーとして活躍するようにしっかりと基本的な生活態度を確立させる。部活動や自治会活動、ボランティア活動など勉強以外の活動も大事にし、逞しい心と体を養うことをしていきたい。また、伝統・文化を継承する姿勢を育むために、ねふたの制作、運行を例年行っているが、それに加えて今年度は6月2日に学校のある新寺町周辺で地域フィールドワークを行った。地域の文化や成り立ちを学んできた。
- ・キャリア教育の推進に関して、本校の生徒の進路は大学へ進学する者がほとんどであるが、進路指導は3年間の計画をしっかりと立て、さらに大学卒業後も見越した指導を行っていく。
- ・重点校としての基盤整備については、医学を志す生徒のための県の事業を平成19年度より実施しているが、内容を精査しながら今年度も行う。
- ・かつては65分授業や55分授業の時代もあったが、今は50分授業である。また、今年度より全ての学年が6学級の編成となっている。50分という限られた時間の中の授業で「主体的・対話的で深い学び」をはたしてできるか疑問があるが、工夫をしていく。
- ・新しい学習指導要領が公示されるが、本校でもこれから新教育課程を検討しなければならない。まさに周りから「こういう学校であってほしい」というご意見を頂戴して、参考にしていきたい。

教頭 : ○平成28年度学校評価結果報告書について

- ・昨年度の学校評価結果報告書では、目標の達成度において「B」のつく項目もあり、まだ改善の余地がある。
- ・「確かな学力の育成」の項目では、今年度も校内研修や学校訪問など計画し、先生方が自己研鑽できる機会を多くする。
- ・「豊かな人間性と社会性の育成」「キャリア教育の推進」の項目でも改善策において、「～する必要がある」という文言があるとおり、まだ改善が必要とされている。昨年度の反省を生かし、キャリア教育や総合的な学習の時間の計画を今年度も立て、実行していく。

教務部 : ○重点努力目標事項とその取り組みについて

- ・1-（1）の学年教務との連携強化に関しては、毎週の教務会議に学年教務の先生方が加わるように配慮して、学年との情報共有に努めている。
- ・1-（2）の教育課程などの検討については、新学習指導要領をふまえ、本校の生徒にどのような力をつけさせたいかを教員間で共有しながらカリキュラムマネジメントをしていく。大学入学者共通テストでは、英語でも4技能を評価するテストに変わる。教務部だけでなく、各教科の先生方など様々な力を借りながら新しい教育課程の検討をしていく。
- ・2-（1）の考えさせる授業の展開の促進のために、教員の研修の機会をしっかりと

設けていきたい。ただ、研修が多くなりすぎると焦点がぼやけてしまうので、ある程度しぼって実施したい。

- ・ 6－（１）選抜業務はミスが許されないので丁寧に行っていく。
- ・ 7の学校評価については改善できるところはすぐに改善していきたい。

生徒指導部 : ○重点努力目標事項とその取り組みについて

- ・ 1の安全教育は何事にもおいて最も大切である。
- ・ 2の基本的生活態度の確立は社会に出るために重要視している。
- ・ 3の自治会活動や部活動の活性化は、学校生活の充実のために大切である。
- ・ 4の諸行事の円滑実施は、人間性を育むために行事を充実させたい。
- ・ 5の事故・怪我の未然防止は、生徒の安全をしっかりと確保していきたい。
- ・ 6の項目は今年度新たに追加した項目である。頭髪や服装に関して、他校では細かい規定を設けているが、本校の校則では「清潔・質素・端正でなければならない」とのみ規定がある。生徒が自ら考えて行動できるようにしてほしい。また、スマートフォンの使用についてもいつでもどこでも使用して良いのではなく、場所やマナーを考えて良識を持って使用させている。また、スマートフォンの使用は脳の発達を遅らせるというデータもあるので、そういう面からも使い方の指導をしていく。
- ・ 資料には7月5日現在で、非行が無いと記載があるが、先日1件発生した。
- ・ 5、6月にかけて自転車事故が相次いであったが、ほとんど自損事故であった。
- ・ いじめアンケートは年に3回実施をしている。先日の第1回いじめアンケートでは3件あり、生徒から事情を聞いたが、「不快感を感じる」程度であった。これからも学年、担任の先生を中心に注視していく。

○高校総体上位入賞者、全国大会出場者について

- ・ 東北大会出場者は例年よりも多い。
- ・ 全国大会には、剣道部、陸上競技部、テニス部、空手道部、囲碁部、文芸部が出場する。

○部活動加入状況について

- ・ 多くの生徒が加入しているが、傾向として柔道部やラグビー部などかつて盛んであった部活動への加入が少なくなっている。また、剣道部もせっかく全国大会に出場するのに1、2年生の部員が少ない。これらは練習が厳しいイメージから避けられているのか。

進路指導部 : ○重点努力目標事項とその取り組みについて

- ・ 校長先生が掲げた重点目標をもとに努力事項を設定した。
- ・ 1－（１）学習状況や進路志望状況の把握については、把握した後、学年PTAなどの機会に情報提供をしている。
- ・ 1－（２）に関して、今年度の進路講話は東京大学大学院教授の本田由紀氏に講師としてお話し頂いたが、生徒からの質問が多く、盛況であった。また、医学ゼミナールは100名を越す参加者であった。

- ・ 2－（２）の生徒の表現力育成については、アウトプットの機会を設けて、表現力を育てる指導を行っていく。
 - ・ 2－（３）について、英語の４技能の充実を図るために様々な分掌や教科と連携を強化していく。
 - ・ 3－（２）の探究的学習の充実について、１学年はビブリオバトルを先日実施した。２学年は総合的な学習の時間で課題研究に取り組んでいる。テーマが決まり、生徒達は研究をしているが、大学の出前講座とつなげて発表を行っていく。
 - ・ 生徒だけでなく、全教員が自ら学び、その学びを生徒の学びにつながるよう取り組を進めていく。
- 平成２９年度入試の進路状況について
- ・ 現役生の東北大学合格者がますます多かった。
 - ・ 国公立大学の合格者数は７クラス編成の学年では今までで１番多かった。
- 平成２９年度４月の進路志望調査について
- ・ どの学年においても東北大学志望者が多い。
 - ・ 東京大学を志望する生徒もいずれの学年でもそれぞれ１０名程度いる。
 - ・ 弘前大学の志望者は医学部医学科を中心に多い。
- 学習状況調査の結果について
- ・ 過去の学年との比較をしたものである。どの教科に多くの時間取り組んでいるかは学年によって違いは見られる。
 - ・ 面談などの際に生徒への進路指導に活用している。
- 進路行事に関わる年間行事について
- ・ 土日に模擬試験など進路行事がある日を色分けして見やすくしている。事務部に協力を頂いて、土日の時間や放課後の時間に生徒が有効的に活用できるようにしている。

教頭 : 各評議員からご質問やご意見を頂く。

評議員 A 氏 : ・生徒指導部の重点努力目標に「スマートフォンの使用について」を追加したとあったが、学習時間との関係においても非常に大事なことであると感じた。また、スマートフォンの使用はいじめや犯罪につながる恐れもある。

- ・正しい使用の仕方を知らないと生徒は個人情報の流出などトラブルに巻き込まれる可能性もある。また、卒業後に一人暮らしをする生徒が多いが、大学生になってから正しい使用法を覚えてもらう機会はないと思うので、高校でしっかりと教えて欲しい。
- ・保健相談部の重点努力目標に「スクールカウンセラーとの連携」とあるように、カウンセリングを生徒に対してだけでなく、教員や保護者も対象となっているのが良いと感じた。カウンセリングを受けることは恥ずかしいことではないので、カウンセリングの機会のハードルを下げ、誰でもすぐに受けることが出来るように今後さらに充実をしてほしい。

評議員 B 氏 : 現在、生徒は合宿を年間何回くらい行っているか？自分自身も学生の頃、合宿を通じて先輩や後輩との関係が深まり、社会性が身について、今も役立っている。合宿の経験は生徒に有益だと考える。

生徒指導部 : 昨年度は、硬式野球部、バスケットボール部、吹奏楽部あたりが合宿を多く行っていた。

教頭 : サッカー一部は合宿をどのくらい行っているか？

進路指導部 : 年に 1 回、毎年 3 月に必ず行っている。

校長 : ・本校の生徒会館で行うと、朝食・夕食の準備など環境が整っており、生徒が準備する必要が無い。逆に不便な環境で合宿をやり、生徒が合宿を通じて競技力以外の人間力がつくことが大事である。

- ・ただ、教員の多忙感という問題もあり、合宿の奨励はなかなかできない。以前は他の学校の生徒が練習試合で合宿に来ていたこともあったが、近年少ないのは残念である。

評議員 C 氏 : ・選挙権年齢が 18 歳以上と変更になったが、選挙管理委員会などとの情報交換を行っているか？

- ・また、生徒の政治活動へはどのような対応をとることになっているか？

教頭 : ・昨年度も多くの学校で選挙管理委員会と連携し、出前講座を行ったり、主権者教育を行っていた。今年度、本校では地歴公民科は教科の目標の 1 つに主権者教育の充実を掲げて、研究授業などを行う予定でいる。

・政治活動に関しては本校は届け出制にしておらず、自由参加である。

評議員C氏 : 選挙違反は罰則が厳しいので注意が必要である。

校長 : 授業やホームルーム活動でルールをしっかりと教えて行く。出前講座なども活用できればしていきたい。

評議員A氏 : 知らず知らずのうちに生徒が選挙違反に関わってしまうことが心配である。例えば、戸別訪問をしてのビラ配りなどを安易に手伝ってしまい、違反となりそうでもある。生徒が巻き込まれることを防ぐために選挙管理委員会からのパンフレットなどを活用してルールを教える機会を設けてほしい。

校長 : 確かに、そういう点でルールを教えなければならない。

評議員C氏 : 生徒達は（18歳で初めて選挙権を得るという点で）染まりやすいので、選挙違反に巻き込まれないように気をつけていきたい。

教頭 : 各委員のご指摘の通り、選挙に関わるルールを生徒へ教えなければならない。選挙権年齢の18歳以上への引き下げに伴って国が作成した「私たちが拓く日本の未来」というテキストも活用しながら、生徒に選挙のルールを教えていきたい。

評議員C氏 : 現在、生徒達は私服なのか？制服なのか？

校長 : 今日は1日、総合的な学習の時間のねふた制作なので、熱中症対策として体育の格好で活動をしていた。先週も暑い日が続き、体育着で授業を受けることを認めていた。他校では、様々な熱中症対策をしているが、本校では自己管理も大事であると考えてるので、ここまでの熱中症対策である。

評議員B氏 : ・私は歩いて通勤をしており、弘前高校の生徒とすれ違うことが多いが、しっかりとした服装であるという印象である。よく指導されているなと感じている。
・ただ、電車などの時間に間に合わないかなのか、生徒が急いでいて危なく感じることもあるので、交通事故などに気をつけてもらいたい。

評議員C氏 : スマートフォン自体は持っているよろしいのか？

生徒指導部 : スマートフォンを所有すること自体はもちろん禁止していない。他校では禁止しているところが多いが、校内への持ち込みや使用も本校では認めている。

- 校長 : 他校では朝に生徒が登校したら、担任が袋で保管をするということもある。しかし、弘前高校では「～してはいけない」や「～しなさい」というような「禁止」や「命令」で生徒に指導はなるべくせず、自分で考えて節度を持って使用させている。
- 評議員A氏 : 学校に行くと自主的に電源をOFFにすることを徹底している生徒が多いと聞いている。
- 評議員C氏 : 50分授業はどのようなものであるか？
- 校長 : 私は教員として、65分授業の経験もあるが、55分に10分短くなっただけでも相当短くなったと感じた。
- 生徒指導部 : 65分授業を行っている学校自体がもう今のところ聞かなくなった。
- 校長 : ただし、50分授業ではあるが、火・水・木曜は1日7時間の授業である。
- 評議員B氏 : 65分の授業と50分の授業ではどちらがいいか分からない。しかし、我々が学生の時に65分で授業を受けていたが、そんなに長いと感じたことは無かった。
- 校長 : 「主体的・対話的で深い学び」を授業でやるには50分の授業ではまとめができずに終わりそうで、時間は足りないと感じる。
- 評議員C氏 : 数学が2時間続きなどという時間割はあるのか？
- 教務部 : 学年によっては数学が2時間続きという日もある。
- 評議員A氏 : 昔よりもプリントの量が多いと感じる。先生方がプリントなどを作成し、授業の時間の足りない部分の工夫をしていると感じている。
- 生徒指導部 : 数学に関しては、50分の授業の中で演習をする時間が足りない。家庭学習で各自やるかたちになってしまう。
- 校長 : 「生徒に時間を返す」ということを意識して学習活動を16時で終わるようにしている。1, 2年生は放課後に講習は行っていないし、3年生に関しても高校総体までは講習はない。とにかく授業で勝負をしている。ただし、これから教育課程も再検討していかなければならない。
- 評議員C氏 : 文理選択は、現在は2年生に進級する際に行っているのか？

校長 : かつて3年生で行っていたが、現在は2年生で行っている。

評議員C氏 : 文型と理型の人数の比率は弘前高校では半分半分なのか？

進路指導部 : 理型のほうが多い。クラス編成は3クラスずつだが、1クラスの人数に差がある。例えば、今の2年生は理型が1クラス45人ほど、文型が1クラス35人ほどである。

校長 : 今までの文理選択の状況を調べてみたが、1度だけ文型が多い学年があった。それ以外は全て理型が多い。

教頭 : 年によってクラス編成など運用の工夫をしているが、それらがきちんと成果として表れているのか、データなどを学校評議員会の機会などにお示ししていく。

教頭 : 第39回の学校評議員会は平成30年の2月5日を予定している。次回も是非、ご参集いただきたい。

校長 : ・次回の学校評議員会では今年度の学校評価結果報告書を作成し、資料として事前に示し、評議員の皆さんに見ていただいた上で、ご参加いただく。その場で今年度の学校評価結果を検討していく。
・次回の評議員会までの間でも、日頃気付いた点があればいつでも連絡頂いてご指摘頂きたい。また、様々な学校行事の連絡をこちらから差し上げるが、都合がつく場合はご参加頂きたい。よろしくお願いします。